

한통련 뉴스레터

제120호

発行：在日韓国民主統一連合（韓統連）

〒169-0074 東京都新宿区北新宿1丁目30-30-124 電話/FAX 03-4362-5284
メール chuo@korea-htr.org ホームページ <https://chuo.korea-htr.org/>

ニュースレター配信をご希望の方は chuo@korea-htr.org までご連絡ください。（メールにお名前をご記入の上、件名に「韓統連ニュースレター配信希望」とお書きください）

정세 情勢

●韓米「ファクトシート」、李政権は対米従属から自主外交の道へ



韓米合意を糾弾する平和連帯と共同行動のメンバー

「ファクトシート」発表、国防費増額・武器購入・米軍支援

韓米両政府は11月14日、関税・安全保障分野の交渉結果を盛り込んだ「共同説明資料（共同ファクトシート）」の内容が最終確定したと発表した。ファクトシートにおける関税交渉と対米投資に関する詳細説明は、これまで発表されたものと大きく異なるところはなかった。しかし、この間知られなかった安保関連の公約、すなわち韓米安保同盟の包括的テーマである「同盟の現代化」の名目で合意した事案については、指摘と批判をしておかなければならぬ。

ファクトシートによると、韓国が国防費を国内総生産（GDP）比で3.5%に引き上げ、米国製軍事装備購入のために203

0年までに250億ドル（約3兆9千億円）を出し、在韓米軍に330億ドル（約5兆2千億円）相当の包括的支援を提供することが確認される。

魏聖洛（ウイ・ソンラク）国家安保室長はファクトシート発表後の記者会見で、330億ドルは駐韓米軍駐留費の支援金と土地、光熱費など直間接費用をすべて合計したものと説明した。しかし、来年の駐留費支援金は国会で承認されたところでは10億ドル（約1千600億円）水準であること、トランプ米大統領が平素から「韓国は1年に100億ドル（約1兆6千億円）出すべき」と吹っかけて主張してきたことを勘案すると、330億ドルには疑問符が付く。その計算過程がどうなっているのか明らかにすべきだ。

国防費増額についてもなぜ必要なのか説明はなかった。250億ドルについてはF-35Aステルス戦闘機と早期警戒機、各種ヘリコプターを購入するという。言うまでもなく米国は同盟国に国防費負担をさせ、これを通じて自国の軍事産業を支援することが目的であり、結局、韓国はこれに順応してしまった。

さらに問題なのは駐留費支援と国防費増

額が示す方向性だ。韓米は「北朝鮮（※正しくは朝鮮、以下同じ）を含め同盟に対するすべての域内の脅威」に対処し、「両岸問題における一方的な現状変更に反対する」と明らかにすることで、中国に対するけん制を公式化した。「同盟の現代化」とは一言で表現すれば、韓国を対中前進基地につくりあげることだが、原潜（政府は「核推進潜水艦」と呼称）建造も含めて、まさにその方向へと進んでいる。こうした動きは対米従属を加速化し域内の葛藤を増大させるだけだ。

市民社会、「ファクトシート」糾弾

ファクトシートの内容に対し市民社会から糾弾の声があがった。

自主統一平和連帯（平和連帯）と「トランプの威嚇（脅威）阻止 共同行動」は15日、ソウル光化門と米大使館一帯で「米国の経済・安保収奪阻止、主権と生存権を守る市民行動」として集会とデモ行進を展開。

各界からの発言の中で平和連帯のイ・ホンジョン常任代表議長は前日に発表した声明を引用しながら、△安保分野の合意も深刻であり、米国の要求を受容し国防費増額と武器購入、駐韓米軍の支援を約束した△対米従属の深化へつながる核推進潜水艦の導入、韓米同盟の活動範囲の拡張も問題△過去に「北朝鮮の非核化」要求を前面に掲げて平和交渉の扉を閉じてしまった。すでに失敗した道を繰り返してはならないと主張した。

朝鮮、「ファクトシート」とSCM声明を非難

朝鮮は朝鮮中央通信の18日の論評を通

じて「ファクトシート」と韓米定例安保協議（SCM、4日ソウル）の共同声明（14日発表）について非難した。

論評では「われわれの合法的な安全上の憂慮を露骨に無視し、地域情勢の緊張をさらに激化させている」とし、「わが国家に変わりなく敵対的でいようとする米韓の対決的企図が改めて公式化、政策化された。国家の主権と安全利益、地域の平和守護のためのより当為的で現実対応的な措置を取っていく」との立場を示した。

これに対し大統領室は18日、「北側への敵対や対決の意思はない」とした上で、「南北間の緊張緩和と信頼回復に向けて一貫した努力を傾けていく」と述べた。

李政権は自主外交の展開を

米国第1主義を掲げるトランプ政権による関税・投資強要と安保脅威は不当極まりないので、最大限、糾弾しなければならない。そして、この強要と脅威はあれこれと交渉する事案ではなく、国民主権を守るための自主外交をどれだけ展開し貫徹できるかを示す闘争対象である。いま、主権者国民は国民主権政府を自任する李政権に対し、自らが掲げた政策基調である「韓米同盟重視」と「国益中心の実用外交」のどちらに重きを置くのかを問うている。李政権はこれにこたえなければならない。主権を守るために立ちあがった市民による「光の革命」の中から、国民主権政府が誕生したことを忘れてはならない。

（11月26日）

●情勢短信

李大統領、創立 40 周年民家協オモニたちと懇談

李在明（イ・ジェミョン）大統領は 11 月 13 日、大統領室で創立 40 周年を迎えた「民主化実践家族運動協議会（民家協）」のオモニ（母親）たちと懇談会を開催した。李大統領は「独裁政権時代の苦痛に満ちた闘いの現場に、オモニたちが真っ先に駆けつけ闘ってくれたおかげで、韓国は世界で民主的な国家として成長し発展する国としての地位を確保した」とし、「国民を代表して感謝の言葉を送る」と述べた。チョ・スンドク常任議長は 40 周年を振り返りながら李大統領に民家協への協力を依頼し、40 周年記念写真集を贈呈した。民家協は良心囚のオモニたちが中心となり、良心囚の釈放、国家保安法の撤廃など人権運動を 40 年にわたり展開してきた。

朝鮮外相、G7 非核化声明を糾弾

朝鮮の崔善姫（チェ・ソニ）外相は 11 月 14 日、主要 7カ国（G7）外相が朝鮮の完全な非核化の原則を確認する声明を出したことについて、「最も強い表現で断固として糾弾し排撃する」と非難する談話を出した。朝鮮中央通信が 14 日に報じた。談話は朝鮮労働党機関紙、労働新聞にも掲載された。崔氏は「わが国の憲法に対する直接的な侵害となる G7 外相たちの露骨な敵対的行為に強い不満と遺憾の意を表す」として、「厳しい地政学的な環境の中で核保有は最も危険で敵対的な国家を抑止できる最も正確な選択」と主張した。G7 外相は 12 日（現地時間）、カナダで会合し共同声明を発表した。

韓国政府、今年も佐渡金山で独自追悼式

韓国政府は 11 月 21 日、「佐渡島の金山」

で強制労働を強いられた朝鮮半島出身者を追悼する独自の式典を同市で開催した。追悼式は、佐渡島の金山が国連教育科学文化機関（ユネスコ）の世界遺産に登録される際、韓国が朝鮮半島出身者の強制労働を含む全体の歴史を反映するよう求め、日本側が毎年開くと約束していたが、日本側は強制労働があったことを認めない姿勢を示し、昨年に続いて今年も韓国独自の開催となった。追悼式には遺族 11 人や李赫（イ・ヒョク）駐日大使らが出席した。日本側は 9 月 13 日に追悼式を開いたが、韓国側は参加しなかった。追悼式で朝鮮半島出身者の強制労働に関する言及はなかった。

李大統領、米工場で一時拘束の労働者に手紙

李在明（イ・ジェミョン）大統領が、米ジョージア州にある現代自動車などの工場で米移民当局に一時拘束された韓国人労働者約 300 人に、ねぎらいの手紙を送ったことが 11 月 24 日、分かった。大統領室によると、外交部が 22 ~ 24 日、被害者に手紙を発送した。李大統領は「本当に疲れさまでしたと申し上げたい」として、「政府の対応を信じ、毅然として耐えてくれたことに感謝する」と表明。「二度と同じことが繰り返されないよう要求し、緊密に協議して合理的かつ持続可能な対策を講じる」との方針を示した。

李大統領、韓米合同軍事演習に言及

李在明（イ・ジェミョン）大統領は 11 月 24 日（現地時間）、トルコに向かう大統領専用機内で記者会見を開催。南北の緊張緩和措置として、米国との合同軍事訓練の縮小を検討しているかと問われ、「北が最も敏

感に反応する部分」としつつ、「先制的にわれわれが訓練規模の縮小や延期を検討すべきだという主張も一部ではあるが、現在の状況でどの方向に向かうか予断するのは難しい」との認識を示した。ただ、「南北の平和体制が構築されれば、訓練を実施しないことが望ましい」と表明。「状況によって（訓練の縮小は平和体制構築の）結果になることも、レバレッジ（てこ）になることもあり得る」とし、「今は（どちらになるかは）言い難い」と述べた。

社会大改革委員会、来月出帆

政府は11月25日、閣議を開催し、社会大改革委員会の設置・運営に関する大統領令案を審議・議決した。同委は市民社会と各

界人士が集まった広場大選連合政治市民連帯と院内5党（「共に民主党」、祖国革新党、進歩党、基本所得党、社会民主党）が大統領選を前にした5月9日に発表した共同宣言文に沿ったもので、国政課題に含まれた。同委は市民社会・政党・政府が共に疎通するプラットホームとして民主主義と社会正義の実現、経済正義と民生安定などについて金民錫（キム・ミンソク）首相の諮問に応じ主要政策を提案する役割を担う。来月、正式出帆する予定。

활동보고 活動報告

●京都本部が再建総会開催…自主・民主・統一運動の新たな拠点を創出



京都本部の躍進を誓う参加者たち

韓統連京都本部再建準備委員会は11月16日、京都市内で再建総会を開催した。李勝熙（イ・スンヒ）再建委員長が主催者あいさつ。「光復80年を迎えた今年は、韓国で内乱を画策した尹錫悦（ウン・ソンヨル）が市民による『光の革命』によって倒れ、李在明（イ・ジェミョン）政権が誕生した歴史的な年だ。韓統連はこれまでも軍事独裁政権と闘い、祖国統一に向けて活動してきた。今日の再建総会によって、京都本部がその輝かしい運動の隊列に加わる。全員の力で総会を成功させよう」と語った。

中央本部から宋世一（ソン・セイル）委員長が激励あいさつ。「再建に向けて多くの苦労があったと思うが、李再建委員長が京都の中で人間関係をつなぎながら運動を始めるために組織を立ち上げようと決意し、それを京都の多くの同志が応援してくれたことで、今日の総会が実現した。中心と指導部、そしてそれを応援してくれる方々の頼もしい力によって、京都本部の前途は洋々だ。今後京都本部が自主・民主・統一運動の先頭に立つことを期待する」と語った。

韓国問題研究所の康宗憲（カン・ジョンホン）代表が連帶あいさつ。「これだけの仲間が駆けつけてくれたのだから、総会の成功は間違いないだろう」「2025年はわたしたちが政治犯として拘束された11.22事件から50年になる。当時はわたしたちをみる国民の目も厳しかったが、民主化闘争が高揚するにつれ、わたしたちを同志と思ってくれるようになった。試練に耐えてきた韓統連が、後に受け入れられた過程と重なる。これからも闘いを継承しながら、共に闘っていこう」と語った。

総連京都本部の金賢一（キム・ヒヨニル）

国際部長が連帶あいさつ。「朝鮮半島を巡る情勢は現在厳しいが、わたしたちの思いは、かならず実現するだろうと考えている。これからも祖国と東アジアの平和に向けて共に頑張っていきたい」と語った。

議案審議では再建までの活動が報告され、運動方針として△韓統連の全国隊列の一員として京都本部の組織基盤を強化し、自主・民主・統一運動の地域展開に邁進する△京都本部の常任委員会を整備し、幹部隊列を強固にしていく△親睦会や学習会、レクリエーションなどを定期的に企画し、会員の拡大と団結を勝ち取っていく△青年運動への支援を最大限、模索していくとする4項目が提案され、全員の拍手で採択された。

新執行部には代表委員として李勝熙氏、顧問として姜聲德（カン・ソンドク）氏が選出された。また常任委員として金秀充（キム・スチュン）、秦昌寬（チン・チャングアン）、張敦惲（チャン・トンゲ）が登用された。新執行部を代表して李代表委員があいさつ。「代表委員に選出されたが、わたしは韓統連の全国隊列の中では若い世代だ。今後運動を牽引していかなければならない。韓青時代に南北の離散家族の再会に接し、涙した。あのような悲しみを一つでもなくしていきたい。韓統連京都を再建するという大きな日を迎え、できることを一生懸命実践していきたい。京都本部が全国隊列を強化できるよう、運動に邁進していきたい」と語った。

総会後、近隣で祝賀会を開催。在日韓国文人協会の金里博（キム・リバク）会長が乾杯あいさつし、総会参加者は交流を深めながら、京都本部の一層の発展を祈願した。

李勝熙(イ・スンヒ)代表委員 就任あいさつ



韓統連京都本部の新代表に選出されました李勝熙(イ・スンヒ)です。今年54歳になりましたが、韓統連全国隊列の代表としては神奈川の文世賢(ムン・セヒョン)同志と同じ年で一番若い方だと思います。しかしながら、青年運動を引退してから17年間、特に何もしてなかつたので、韓統連京都を再建するお話しを金昌五(キム・チャンオ)副委員長からいただき、韓統連の会議に参加するようになってからは、情勢討論など、まわりの皆さんについていくのがとにかく大変でした。情勢報告を理解し、飲み込むのに時間がかかり、そういう頭のリハビリから韓統連京都の再建の一歩は始まりました。

激動する朝鮮半島情勢は、わたしが青年運動を志した1990年の頃から何度も、祖国統一の希望に沸き立ったり、戦争の危機に瀕したりしながらを繰り返し、今も相変わらず平和と危機の間を行ったり来たりしています。青年活動を卒業してからは、日常の生活の中では朝鮮半島情勢のニュースを聞いても、どこか他人事のように感じながら過ごしていました。韓青京都への支援はできるだけしてきたつもりでしたが、それ以外は特に何も無く、仕事と好きなことだけをやるだけの日々でした。

韓青時代はよく将来について語り合ったものでした。本当に毎日忙しくて活動のないの方が珍しく、週に2度の会議、ウリマル授業、戸別訪問、学習会、文化発表の練習、街頭情宣、深夜のポスター貼り、そして飲み会。そんな毎日でしたが、自分の信じた道を進んでいるという確かな手応えと充実感があり、自分が自分らしく生きる、自分が年老いて死ぬ時に「俺の人生楽しかった」と笑って言えるような、そんな生き方をしている、という確信に満ちあふれてました。

今はもう、還暦に手が届くような年代になってきましたので、昔のような地獄のロードを走ることはできそうにないですが、以前から「韓統連京都があれば、韓青京都をもっと助けることができるんじゃないかな」、そんな思いがくすぶっていました。17年という空白がありましたが、「勝熙さんがやるなら僕も手伝います」と言ってくれる同志がいます。こんなに心強いことはありません。

韓統連京都本部を再建・再整備するにあたって、まずは自分から変わっていく、そしてすぐ近くの同志達への思いを伝えて伝播していく。更に多くの旧友・同志・そして後輩の青年達に、勇気とまだくすぶっている情熱と、ちょっぴりのカンパと酒を分け合って、京都本部の大きな力となるような、そんな場所をつくっていきたい。そしてそれが、韓統連全国隊列の強化と発展に寄与すると信じています。

本日ご来席いただいた全ての先生・先輩方、同志の皆さん。京都は本当にこれからです。つたないことやお叱りを受けることもあるかもしれません。頑張っていきますので、 앞으로도 잘 부탁드립니다(よろしくお願ひします)。

●朝鮮大学校朝鮮問題研究センターが国際シンポジウム開催



報告するヴォロンツォフ部長

朝鮮大学校朝鮮問題研究センター（KU CKS）は11月15日、都内で国際シンポジウム「多極化時代の東アジアと朝鮮」を開催した。

金哲秀（キン・チョルス）センター長が主催者あいさつ。「多極化の進展により、朝鮮半島を巡る情勢も大きく動いている。今回のシンポジウムを契機に、今後の東アジアの平和に向けた課題について考えていきたい」と語った。

シンポジウムではロシア科学アカデミー東洋研究所のアレクサンドル・V・ヴォロンツォフ朝鮮・モンゴル部長、東洋学園大学の朱建榮客員教授、朝鮮大学校の林裕哲（リム・ユチヨル）准教授、李柄輝（リ・ビョンフィ）教授が登壇し、それぞれのテーマについて語った。

●大阪で「第38回いややねんせんそう！ こどもまつり」開催…戦争反対をアピール



バンブーダンスを楽しむ参加者たち

ヴォロンツォフ部長はロシアの外交政策について解説。「2010年代頃から西側諸国がロシア国境に迫るようになり、それがウクライナにおける軍事衝突の原因となつた」「現在世界の約4分の3がロシア制裁に参加しておらず、ロシアを孤立させようとする米国の目論見は失敗している。多極化の時代を迎えた今、韓米日軍事同盟の強化は、ロシア、朝鮮、中国をはじめ、周辺諸国のさらなる結束を呼ぶだろう」と語った。

李教授は朝鮮の現状について「朝米のハノイ会談の決裂後、自主化・多極化促進外交の一環としてロシアに接近し、関係強化を図った。今年7月の「朝ロ共同宣言」の発表によって朝ロ関係は戦略的なパートナー関係となり、世界秩序の構造的変容を促した」と強調。「多極化の中で朝鮮は核保有国としての地位を築きつつある。米国、韓国、日本が時代の変化に即した外交を展開できるかどうかで、朝米、朝日関係は転換していくだろう」と語った。

朱客員教授は中国から見た多極化時代の捉え方について、林准教授はバンドン会議からB R I C Sにいたるまでの、グローバル・サウスの発展と今後の方向性について語った。

11月15日、大阪市内で「第38回いややねんせんそう！ こどもまつり」が開催された。主催は韓統連大阪本部が参加する実行委員会。

オープニングのエイサーに始まり、アジアハウスこども劇団による歌と続き、多彩な演目が公園に集まつたこどもたち、おとなたちを楽しませた。

今年の特徴は、「戦後80年」と「おそと

あそび」。演目の中での紙芝居では、戦争の悲惨さ、生きることの大切さがわかりやすく表現された。会場ではトゥホ（朝鮮半島のやり投げ遊び）、コマ回しなどに子どもたちやおとなたちが熱中。全員参加のバンブーダンス、リンボーダンスにはこどもたちが

●神奈川本部が情勢学習会を開催…李俊一事務長が報告



報告する李俊一事務長（中央）

韓統連神奈川本部は11月22日、川崎市内で情勢学習会を開催した。

文世賢（ムン・セヒョン）代表委員の主催者あいさつ後、中央本部の李俊一（イ・チュニル）事務長が報告。韓米関税交渉について「表向きは韓国から米国への投資というこ

●大阪で排外政策に反対しデモ行進…韓青が参加しアピール



排外主義反対をアピールする参加者たち

群がり、時間を忘れて熱中した。

主催者は「悲惨な大戦から80年経っても、世界では今も戦争が続いている。平和な世界になるよう、日本は戦争をしないと誓ったことを忘れないでいよう」と呼びかけた。

とだが、極めて米国に有利な条件となっており、実態は米国による経済収奪にほかない」と指摘。李在明（イ・ジェミョン）政権が成果としている原子力潜水艦の建造許可については「原子力潜水艦は無限の航続距離を誇り、核兵器も搭載できる戦略兵器だ。朝鮮にとって非常に危険な動きであり、警戒心を極度に強めている。朝鮮との対話どころか、戦争危機をより高めることになる」と批判。「今回の韓米交渉は韓国になんの利益ももたらさず、米国による経済的、軍事的支配をより深めることになるだろう。李政権と『共に民主党』の限界があらわれたと言える。わたしたちの力を存分に発揮し、反米自主運動を高めていこう」と強調した。

「いま、ここにいる、わたしたちを排除するなデモ」が11月23日、大阪市内で開催された。主催は同実行委員会。

行進出発前に集会を実施。主催者あいさつでは「高市政権発足後、中国との関係が悪化するなど極右・排外政策が蔓延する中で、それに呼応して全国的に移民排斥デモが行われている」と指摘。「そのようなデモは移民ルーツや外国籍の子どもだけでなく、日本の子どもにも見せられない。排外主義に抵抗するために今回のデモ行進を企画した」

と述べられた。

韓青大阪府本部の朴槿洙（パク・クンス）常任委員が発言。「排外主義蔓延を助長するものとして、中国、朝鮮、ロシアを狙った米国主導の韓米日軍事同盟の存在がある。この3カ国軍事同盟が危険な戦争挑発を繰り返すことによって東アジアに戦争の危機が迫り、排外主義をさらに増長させる根拠となっている」とし、韓米日軍事同盟および戦

争挑発行為への反対を呼びかけた。

集会後、御堂筋でデモ行進。排外主義反対、イスラエルによるパレスチナ侵攻反対、大阪万博パビリオン建設費未払い精算、韓米日軍事同盟および戦争挑発行為反対と声を上げた。韓青はプンムル（朝鮮半島の伝統打楽器演奏）隊を組織しデモを先導。通行する市民の注目を集めた。

●活動レポート

韓国オプティカル労組、定例宣伝行動



アピールする宋世一委員長

「韓国オプティカルハイテック労組を支援する会」は11月25日、都内・品川駅前と日東电工東京本社前で定例宣伝行動を展開した。駅前の行動で韓統連の宋世一（ソン・セイル）委員長は、韓国政府と与党「共に民主党」に対し争議解決の取り組みにさらに拍車をかけるよう要求した上で、「日東电工は雇用継承で争議を早期に解決しろ」とアピールした。日東电工は9月に全国の同社関連施設への要請行動の禁止を求める訴訟を提起。本社前では「これは正当な組

合・支援活動に対するスラップ訴訟」と糾弾の声をあげた。※スラップ訴訟とは、市民参加を排除するための「戦略的訴訟」のこと。相手への嫌がらせや萎縮を目的として、勝訴の見込みが低いにもかかわらず訴訟を起こすことを指す。その目的は本来の紛争解決ではなく、相手の言論や活動を封じ込めることにある。

全国会議 月例宣伝行動

「韓国良心囚を支援する会全国会議」が11月25日、都内で月例宣伝行動を展開。良心囚全員の再審無罪と国家保安法の撤廃を訴えた。韓統連の李俊一（イ・チュニル）事務長がアピール。「現在、韓国と日本、米国は軍事的なつながりを強化しており、朝鮮や中国との溝が深まっている。韓国と朝鮮が対話を再開するには、敵視行為の中止が絶対条件だ。国家保安法は朝鮮を敵視した法律であり、存在そのものが危険と言える。南北対話再開のためにも、良心囚の皆さんのお名前回復のためにも、国家保安法は必ず撤廃されなければならない。」と語った。

행사예정 行事予定

韓日民衆連帯アクション(大阪)

日時: 12月6日(土) 午後5時~ 場所: JR鶴橋駅前 内容: プラカード・マイクアピール他 主催: 韓統連大阪本部、韓青大阪府本部 連絡先: 090-3822-5723(崔)

第20回韓統連愛知セミナー

日時 12月7日(日) 午後1時30分開場、2時開始 場所: 東別院会館 楓の間 内容: 「李在明(イ・ジェミョン)政権の課題と変動する国際情勢を読み解く」(講師: 康宗憲(カン・ジョンホン)韓国問題研究所代表) 参加費: 1000円(学生500円) 主催: 愛知本部 連絡先: kim-wh@sd.starcat.ne.jp

韓統連広島セミナー2025

日時 12月14日(日) 午後2時開場、2時30分~4時30分 場所: 広島市まちづくり市民交流プラザ 北棟5階 研修室C 内容: 「東北アジアの軍事緊張と韓国『光の革命』李在明(イ・ジェミョン)政権の誕生と日本の右傾化」(講師: 金昌五(キム・チャンオ)副委員長) 参加費: 1,000円 主催: 広島本部 連絡先: 090-3372-0993(尹)

■韓統連ホームページ、日々更新しています

韓統連ホームページでは、朝鮮半島情勢やわたしたちの活動予定・報告などを日々アップしています。また、講演や集会の動画を韓統連ユーチューブチャンネルで配信しています。あわせてぜひご覧ください。

韓統連



韓統連ホームページ

<https://chuo.korea-htr.org/>

韓統連ユーチューブチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCg8NZg52O1VTAMIgrXfqjQ>

京都本部の再建総会に参加しました。非常に活気にあふれ、参加者全員が勇気をもらった総会でした。新代表委員はじめ、代表をこれから支えていく常任委員は若い世代が多く、今後の躍進が期待されます。今後は京都本部にも応援よろしくお願ひします(李)

祝

韓統連京都本部再建

賀

韓統連中央本部 委員長 宋世一	韓統連神奈川本部 代表委員 文世賢
韓統連愛知本部 代表委員 趙基峰	韓統連三重本部 代表委員 金相祚
韓統連京都本部 代表委員 李勝熙	韓統連大阪本部 代表委員 金昌範
韓統連兵庫本部 代表委員 崔孝行	韓統連広島本部 代表委員 尹康彦
韓青中央本部 委員長 韓成祐	在日韓国人学生協議会 会長 高来鳥